

# 伊丹ルーテル教会 主の変容主日礼拝

## 2021年2月14日

### 前奏：

#### 招きのことば：詩編 50 編 1-6 節

神々の神、主は、御言葉を発し/日の出るところから日の入るところまで/地を呼び集められる。  
麗しさの極みシオンから、神は顕現される。/わたしたちの神は来られる/黙してはおられない。  
御前を火が焼き尽くして行き/御もとには嵐が吹き荒れている。  
神は御自分の民を裁くために/上から天に呼びかけ、また、地に呼びかけられる。  
[わたしの前に集めよ/わたしの慈しみに生きる者を  
いけにえを供えてわたしと契約を結んだ者を。]  
天は神の正しいことを告げ知らせる。神は御自ら裁きを行われる。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば：

**会衆：**私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。  
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に  
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたが  
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。  
(短い黙祷を持ちましょう)

**牧師：**何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・  
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ  
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお  
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死して葬られ、  
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。  
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの  
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝もともに礼拝にあずかり、あなたのみ言葉をいただいて一週間を始めます。ここであなたの赦しをいただきます。新たにいのちをいただきます。ここから感謝をもって新しい一歩を踏み出します。あなたはみ言葉を聞く私たちをここから送り出してくださいますが、あなたはまた私たちの日々の生活の現場に来てくださって私たちを導き支えてくださいます。日常生活の中でこそあなたは私たちを導き、あらゆる災いから守り、隣人の力になるように鍛え用いてくださいます。新型コロナウイルス・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

## 使徒書朗読：第2コリント4章 3-6節

わたしたちの福音に覆いかぶかっているとすると、それは、滅びの道をたどる人々に対して覆われているのです。この世の神が、信じようとはしないこの人々の心の目をくらまし、神の似姿であるキリストの栄光に関する福音の光が見えないようにしたのです。わたしたちは、自分自身を宣べ伝えるのではなく、主であるイエス・キリストを宣べ伝えています。わたしたち自身は、イエスのためにあなたがたに仕える僕なのです。「闇から光が輝き出よ」と命じられた神は、わたしたちの心の内に輝いて、イエス・キリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光を与えてくださいました。

## 福音書朗読：マルコによる福音書9章 2-9節

六日の後、イエスは、ただペトロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、服は真っ白に輝き、この世のどんなさらし職人の腕も及ばぬほど白くなった。エリヤがモーセと共に現れて、イエスと語り合っていた。ペトロが口をはさんでイエスに言った。「先生、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」ペトロは、どう言えばよいのか、分からなかった。弟子たちは非常に恐れていたのである。すると、雲が現れて彼らを覆い、雲の中から声がした。「これはわたしの愛する子。これに聞け。」弟子たちは急いで辺りを見回したが、もはやだれも見えず、ただイエスだけが彼らと一緒におられた。一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまでは、今見たことをだれにも話してはいけません」と弟子たちに命じられた。

## 讃美歌 313番

- 1 この世のつとめいとせわしく、人の声のみしげきときに、  
内なる宮に逃れゆきて、我は聞くなり主のみこえを。

## 2 昔主イエスの山に野べに、人をば避けて 聞きたまいし いともとうとき あまつみこえ、今なお響く わが心に。

- 3 主よ、さわがしき世のちまたに、我を忘れて いそしむまも、  
ちさきみ声を 聞きわけうる 静けき心 与えたまえ。

アーメン

### 説教：「これはわたしの愛する子、これに聞け」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

毎日の生活にドラマチックな喜びは多くはありません。むしろ単調さを忍耐して、しなければならぬことに向き合い、誘惑と闘いながら、結局孤独や後悔、心配事や自信喪失にまみれて生きていることが多いと思います。

イエス様はそんな私たちに神の国をもたらしてくださいました。今週も悔い改めてイエス様の福音を信じて歩んでまいりましょう。

毎週の主日礼拝は、一年でイエス・キリストのご生涯とみ教えに触れることができるように配慮されています。全体でひとつのメッセージを語ります。私たちのために歩まれ、十字架につけられ、そして復活されたイエス・キリストが私たちの主であり、救い主ですというメッセージです。その中心はイエス様の復活です。

毎年春にイースターの日がめぐってきます。この日に私たちのために罪と死と悪魔の力を打ち破ってくださったイエス様の復活を祝います。毎週の礼拝は小さなイースターです。毎週の礼拝で私たちは、よみがえられたイエス様が世の終わりまで私たちを大切に導いてくださることを思います。この一週間は単調で戦いに満ちている一週間かもしれません。しかしイエス様が私たちの罪を赦し、新しい命に生かしてくださいました。私たちは日々、神様と人々に役立っていくという生きがいをいただいて、世の終わりまで生き生きと希望をもって歩みます。

イースターに向けて教会の一年は始まります。クリスマスを待ち望む待降節から始まり、イエス様のご生涯をたどります。イエス様は人々に「神の国は近づいた」とみ言葉を語り、悪霊を追い出し、病人を癒して歩まれました。そしてイエス様は人々に苦しみを受け、十字架につけられます。そして三日目によみがえり、40日の間弟子たちを励まし、天に上ります。その10日後に弟子たちにはイエス様が約束された聖霊がくだりました。聖霊降臨日といいます。弟子たちはその後聖霊によって力を受けて、エルサレムからはじめて、ユダヤ、サマリヤ、および地の果てまで、イエス様の福音が宣べ伝えました。

ことしも、いよいよイースターを目前にする季節となりました。その前にイエス様は私たちのために苦しんで十字架にかかってくださいました。その苦しみが私たちのためだったことをしっかりと受け止めるために、教会では40日前からイエス様の受難を覚えます。今週の水曜日は灰の水曜日と言われ、あらためて自分の罪を悔い改め、イエス様が私のために苦しんでくださった十字架のメッセージを聞きます。主日ごとにイエス様が十字架にむかって歩まれたことを覚えます。ついにエルサレムにろばの子にのって入城され、その週の木曜日に不当な裁判を受けて、金曜日に十字架につけられます。その日を数えて三日目に、日曜日の朝、イエス様はよみがえってくださいます。イースターには、このイエス様の復活をお祝いします。

さて、本日与えられている聖書の箇所は、イエス様が山の上でお姿がかわり、弟子たちの前で父なる神様の栄光と誉れをお受けになったところです。イエス様のお姿がかわった、ということで変貌の山、変貌山の出来事と呼ばれるところです。

細かいことですが、9章2節には「6日の後」と書かれていました。このことで変貌山の出来事のタイミングがわかります。

8章27節でイエス様はピリポ・カイザリア地方に弟子たちを連れて行かれました。イエス様はお弟子たちをつれてたくさんの町や村を訪ねて歩まれましたが、ピリポ・カイザリア地方はその最も北の地方です。南にあるエルサレムの都からは一番離れたところです。そこで弟子たちはこれまで付き従って歩んできたイエス様がメシアである、つまり、世の「救い主」であるという信仰を告白をしました。そのあとすぐにイエス様は、ご自分がどのように人々をお救いになるかをお話始められ、弟子たちに福音のために命がけで従うようにと勧めました。

メシアは世を救う救い主です。どのようにしてイエス様は世を救ってくださるのでしょうか。お弟子たちはいよいよイエス様が力をふるって、王様にでもなって、世界を支配し、人々に平和と繁栄を与え、やっぱり神様はすばらしい方だ、と目が開かれることを漠然と期待していました。しかしイエス様のお考えはまったく違いました。イエス様はそのとき弟子たちに、ご自分は多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺されることになる、と予告されました。そのあと3日目によみがえるともいわれました。そして弟子たちに、あなたがたも自分の十字架を背負ってわたしに従いなさい、と言われました。ここから南に向かって、つまり、エルサレムに向かってイエス様は歩き始められたのです。

この6日後にイエス様は山の上で姿がかわりました。イエス様は弟子たちが信じることができるよう、代表の3人を連れて山に登りました。彼らの信じてきた父なる神様がイエス様こそ救い主です、という声を彼らが聞くことができるためです。

ペテロとヤコブとヨハネは高い山の上で、イエス様が真っ白に輝く姿を見ました。エリヤとモーセという、旧約聖書の代表的なふたりがイエス様を囲むようにして現れました。エリヤは救い主が来る前にもう一度来ると預言した偉大な先駆者であり預言者です。このエリヤがイエス様を救い主だと証ししています。モーセはエジプトの支配から奴隷となっていたイスラエルの民を救い出して約束の地に導いた神の人でした。モーセはイエス様が私たちが罪と死と悪魔の支配から救い出して、神の子としてくださる救い主だと証ししています。お弟子たちに、これから苦しみを受けて殺される、と言われたイエス様が、旧約聖書の中でやがてこられると預言されていた神の御子、救い主であるということがはっきりと示されたのです。

弟子たちはとても驚きました。恐れと戸惑いのあまり何を言えばよいかわからずペテロは、ここに3つ幕屋を立てましょう、と提案しました。そのとき雲が彼らを覆って、声がしました。父なる神様の声です。イエス様をさして、「これはわたしの愛する子、これに聞け」と言われる厳かな神様の御声でした。旧約聖書全体は神の民にやがて来てくださる救い主を待ち望むことを教えています。父なる神様は、神の民が待ち望み、待ち焦がれた救い主を今送った、イエス・キリストだ、今や、このイエス様が神の御子として救いを成し遂げられるのだから、ただイエス様だけを見て、イエス様だけに聞いて歩いていきなさい、とおっしゃったのです。弟子たちは天の父なる神様の御声を聞いたのです。お弟子たちにとって父なる神様の御声以上確かなことはありませんでした。雲がとけ、まわりを見まわしましたが、弟子たちにはイエス様だけが一緒におられました。

救い主のイエス様がなぜ苦しみ、十字架につけられ、よみがえらなければならないのか、よく理解できなかったお弟子たちですが、とにかく父なる神様がイエス様を私たちの救い主としてお送りくださったので、神様にお委ねしてイエス様に聞き従っていこうと思ったことがわかります。イエス様はお弟子たちと一緒に山を下りられるとき、わたしが復活するまで今見たことを誰にも話さないようにと禁じられました。それは苦しみと十字架を通して、そのあと復活することの意味が、まだ弟子たちにはわかっていないからでした。

なぜメシアが苦しまなければならないか、がお弟子たちにはまだわかりませんでした。でも変貌山の経験がなければ、お弟子たちは、イエス様が苦しめられて十字架につけられることを、ご自分のなしとげたい人々の救いが達成できなかったのではないかと、イエス様は神の国をもたらず努力の道半ばで人々にはばまれて、不本意ながら苦しめられ、殺されたのではないかと、思い違いをしたかもしれません。しかし、少なくともそうではない、復活されたイエス様にお出会いするときにイエス様がおっしゃっていたことがわかるようになる、と希望をいただきました。イエス様の復活されることが信仰の中心となったのです。

この日のことを後にペテロはその第2の手紙1章16節以下で熱心に語っています。聖なる山で荘厳な栄光の中から父なる神様が、私たちのイエス様に誉れと栄光を与えました、私はその目撃者です、とペテロは語ります。

イエス様はイスラエルの国を復興する救い主というよりも、イスラエルの人々をも、世界の人々をも虜にし苦しめている罪と死と悪魔の力から私たちを救い出してくださいませる救い主です。ペテロの第2の手紙の2章を読むと、復活のあとペテロが理解したことが書かれています。イエス様は罪と死と悪魔の力をご自分の十字架の死によってそれらをもろともに引き受けて死んでくださいました。そして罪と死と悪魔の力を暗闇という縄で縛って地獄に引き渡し、裁きのために閉じ込めてくださったのです。イエス様は十字架で死んでくださったときに、彼らの力をご自分の身に引き受けられました。そしてもろともに死んで神様から見捨てられてくださったのです。

そして、イエス様はご自分の死によって、人々を縛っていた罪と死と悪魔の力を裁きのために暗闇に縛ってくださいました。神様はそのイエス様の救いのみわざの完成をご覧になり、それらの力をそこに置き去りにしてそこからイエス様をよみがえらせました。イエス様は完全に死なれたことのわかる三日目に、神様によってよみがえらせられたのです。

私たちは洗礼によってこのイエス様とひとつとされます。私の罪は十字架で死にました。そしてもう罪と死と悪魔に支配されない新しい命がイエス様とともによみがえらせられました。今やキリスト・イエスにあるものは罪にさだめられません。むしろ、イエス様の復活のいのちにみなぎらせていただき、神の子として歩みます。ペテロはイエス様の変貌の姿の意味をあとでこのように手紙に書いて教えています。

そして勧めます。縛られているのに依然として私たちを肉の欲やみだらな楽しみで誘惑する罪の力に再び身を任せないようにしなさい。自由を与える、と偽りをふきこまれないよう注意しなさい。上手にだまされて、わがままと世のけがれに身を任せ、滅亡の奴隷にならないように、イエス様の与えてくださる復活のいのちに焦点をあわせて生きるようにと勧めています。

イエスだけが彼らと一緒にいたと記されていました。山をおりて普段の生活にかえりました。そこで神の御子、救い主であるキリストとともに歩んだのです。私たちの毎日の生活には確かにドラマチックな喜びは多くはありません。むしろ単調さを忍耐して、しなければならぬことに向き合い、誘惑と闘いながら、結局孤独や後悔、心配事や自信喪失にまみれて生きていることが多いと思います。しかし、私たちもこのイエス様とともに日常の生活を送ります。ご自分の死と復活によって私たちの罪を確かに赦し、神の子として導いてくださるイエス様を信じ

て、この一週間も生きがいにあふれて歩んでまいりましょう。イースターにむけて悔い改めと信仰に心燃やされて歩んでまいりましょう。

祈ります。「愛と恵に富たもう、父なる神様。感謝をいたします。私たちを愛して、イエス様によって罪と死と悪魔の力から解き放ち、復活のいのちにみなぎらせてくださいました。この一週間もあなたに与えられた命を生きていく喜びの一週間とされますことをあらためて感謝をいたします。苦しむ方々のかたわらに寄り添い、主イエス様のみ救いを証しする一週とさせてください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン。

#### 讃美歌 514 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 弱き者よ、われにすべて まかせよやと 主はのたもう。  
※主によりて あがなわる、わが身の幸はみな主にあり。
- 2 岩のごとくかたき心 砕くものは みちからのみ。 ※
- 3 我に何の いさおしあらん、ただ主の血に きよくせらる。 ※
- 4 死の床より 起くるその日、勇みうたわん 主のみいさお。 ※ アーメン

#### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

#### 頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊のおおみ神に、ときわにたえせず み栄えあれ、み栄えあれ。アーメン

#### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。アーメン

#### 後奏